

OMOIYARIドア(開き戸)用 電気錠

本製品は、OMOIYARIドア(開き戸)に取付ける電気錠です。
OMOIYARIドア(開き戸)の施工説明書も合わせてお読みください。

施工業者様へ
電気錠本体(錠前)に同梱の美和ロック株式会社の取扱説明書をお施主様へ手渡し、安全にお使いいただくための使用方法、お手入れ方法を説明していただきますようお願いいたします。

本施工説明書および、OMOIYARIドア(開き戸)の施工・取扱説明書は下記のURLからダウンロードできます。

<https://www.daiken.jp/qr/manual/>



1 電気錠に関する安全上のご注意 (必ずお守りいただきたいこと)

※その他施工時のご注意については、OMOIYARIドア(開き戸)の施工説明書をご確認ください。

 警告	誤った取扱いにより死亡や重傷などに結びつく可能性のある内容	 注意	誤った取扱いにより傷害または家財・家財などの損害に結びつく内容
---	-------------------------------	---	---------------------------------

本文中に使われている図・記号の意味は次のとおりです。

 してはいけない内容です	 必ず実行していただく内容です	 お願い	留意事項、操作方法、使用・お手入れ方法など
--	--	---	-----------------------

警告

-  電気配線工事は「電気設備技術基準」や「内線規定」に従って確実にこなしてください。
-  電気工事を伴う場合は必ず電気工事店(有資格者)に依頼してください。
-  交流100V以外の電源では使用しないでください。火災、感電の原因となります。
-  ビスの締め付け不足、またはビスの締め過ぎによる空回りの状態に注意してください。製品が外れて、けがや破損のおそれがあります。

本製品を電氣的に作動させるためには制御盤や操作盤などの別売りの製品が必要です。弊社がラインアップする電気錠本体(錠前)および配線コード、通電金具と組み合わせ可能な操作盤やその他の別売り製品については美和ロック株式会社様へお問い合わせのうえ、選定をお願いいたします。

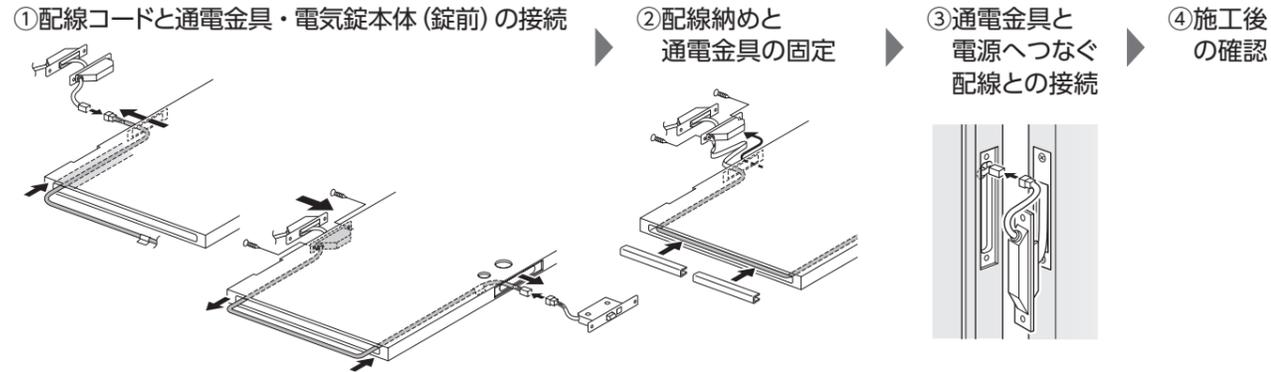
施工の流れ

配線方法の事前確認・準備 (→裏面)

開口の準備、枠の組立て、扉の吊込み ※OMOIYARIドア(開き戸)の施工説明書を参照してください。

電気錠の取付けと配線 (→裏面)

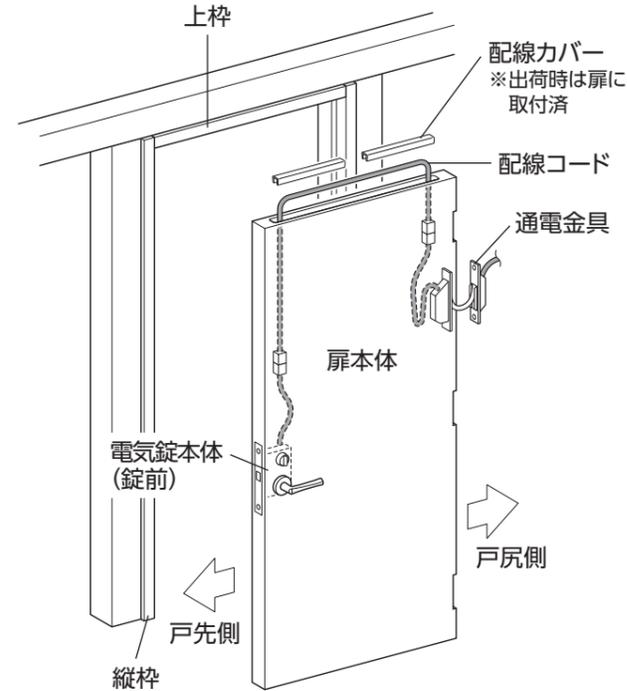
※すべて非通電状態で施工を行ってください。



各種お問い合わせについては、OMOIYARIドア(開き戸)の施工説明書の裏表紙を参照してください。
(弊社製品との組み合わせ可能な電源側に関するお問い合わせについては、美和ロック株式会社様へお問い合わせください。)

2 各部のなまえと部材・部品表

施工前に必ず部材・部品を確認してください。



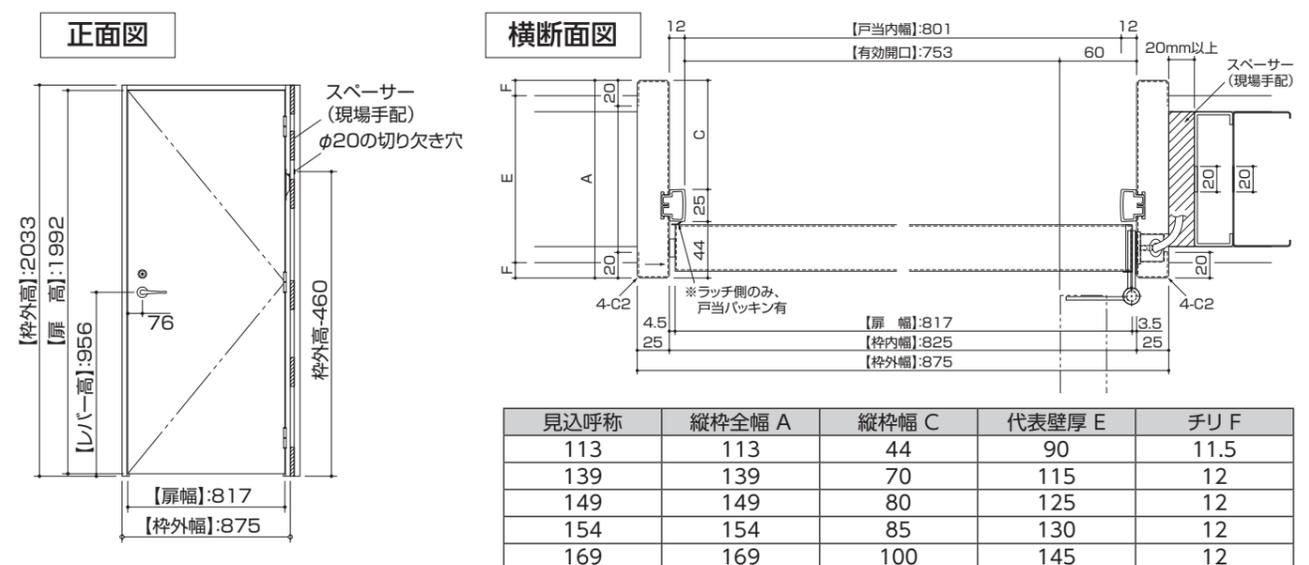
扉梱包	数量
扉本体(配線カバー取付済) ※電気錠特注仕様	扉本体 1 配線カバー(透明) 2 ※LXデザインのみ
配線カバー(透明/アルミ製) ※配線時に取外しますが、捨てないでください。	配線カバー(透明) 1 配線カバー(アルミ製) 1

※丁番はOMOIYARIドア(開き戸)に設定されている。調整丁番またはドアクローザ用丁番のどちらかを扉とあわせてお使いください。
※その他オプションについては、OMOIYARIドア(開き戸)の施工説明書を参照してください。

金具・その他	数量
配線コード(2m)/(1.5m) [型式: DENコード9C] ※扉サイズに合わせて 2mまたは1.5mを設定	1 (2mまたは1.5m)
電気錠本体(錠前) [型式: AUR] サラビス φ3.8×25 4本 取付小ねじ M4×6 2本	1セット
通電金具 [型式: TEK-9CC] サラビスφ3.8×25 4本 ※枠側のリード線について コネクター接続の場合:100mm 電線接続の場合:250mm	1セット

枠梱包	数量	
縦枠 ※電気錠特注仕様	2	
上枠	1	
戸当り	2	
金具セット	枠組立ビス φ4.2×50	4
	枠調整ビス φ5.3×55	10
	戸当り用接着剤 ※扉の配線カバーを固定する際にも使用しますので最後まで保管してください。	1

3 納まり図

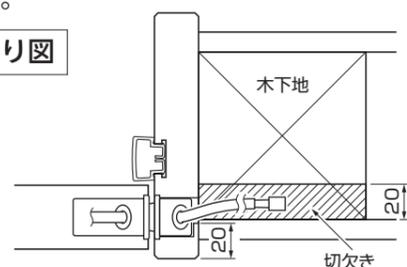


4 配線方法の事前確認・準備

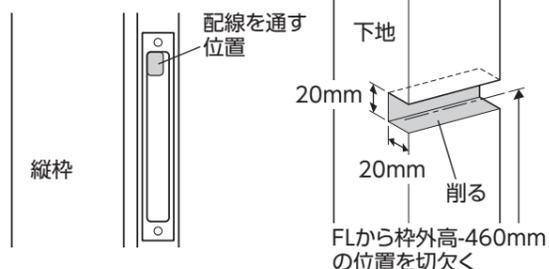
木下地の場合

配線が通るように、配線を通す位置の下地を切欠いてください。

納まり図



開口部内側から見た図



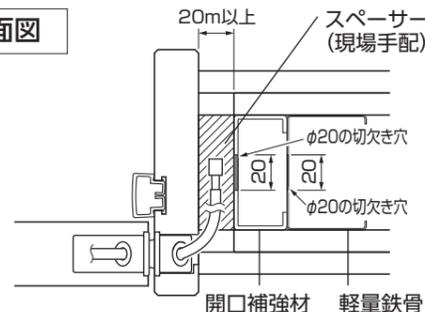
軽量鉄骨下地の場合

配線経路確保のため、木製枠と軽量鉄骨下地の間に合板などのスペーサー（現場手配）を用いて20mm以上空間を設けてください。

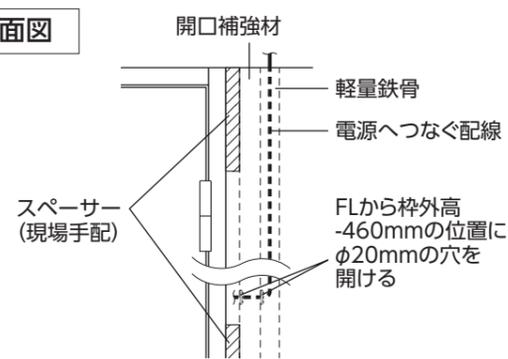
スペーサーを設けても20mm未満の場合、コネクタを納める空間が確保できなくなります。

スペーサーで設けた空間分、下地に届く十分な長さの枠固定用ドリルビスを現場手配してください。

上面図



正面図



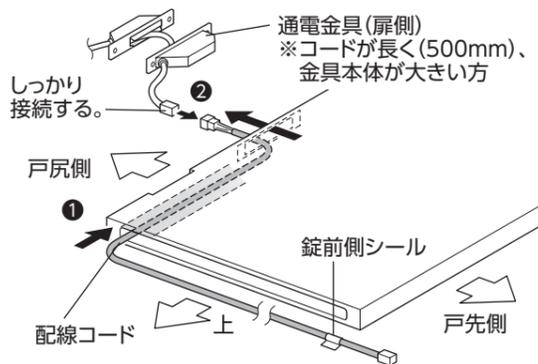
壁への配線の例（ボード2枚貼りの場合）
※1枚貼りの場合は外側がボードの位置

5 電気錠の取付けと配線

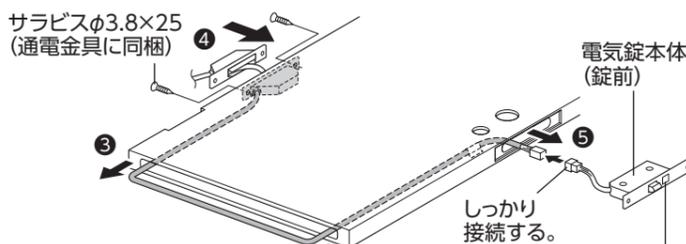
※説明の都合上、図は扉を寝かせた状態で記載しております。

1. 配線コードと通電金具・電気錠本体（錠前）の接続

1. 扉を枠へ吊り込んだ後、配線コードを扉上部の穴から通電金具の加工穴へ通し①、通電金具（扉側）のコネクタと接続する。②



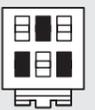
2. 扉上部からコードを引っ張り③、通電金具（扉側）を扉に引き寄せ、ビスで仮固定する。④
※通電金具の固定方法は通電金具に同梱の説明書を参照してください。



3. 反対側の配線コードと電気錠本体（錠前）のコネクタを接続する。⑤

お願い

電気錠の設定が図の様にAUR設定になっているか確認してください。施工時の閉じ込めを防ぐために、非通電時解錠型のAUR設定（詳細は電気錠本体（錠前）に同梱の施工説明書参照）で出荷しています。



「錠前側」と書いていない方を通す。

お願い 配線カバー2個は取外して保管してください。配線完了後に再度取付けます。

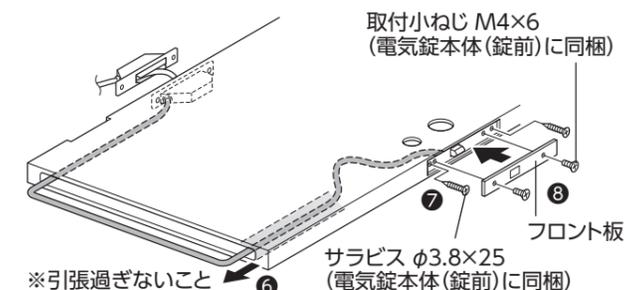
※LXデザインの場合、配線カバー（透明）が1個、配線カバー（アルミ製）が1個です。

1. 配線コードと通電金具・電気錠本体（錠前）の接続（つづき）

4. 電気錠本体（錠前）のコードがはさまらないように、扉上部から配線コードを引出しながら⑥ 電気錠本体（錠前）を扉に差し込む。⑦

5. フロント板を取付ける。⑧

※ 電気錠本体（錠前）およびシリンダー、サムターン、ハンドルの取付方法は電気錠本体（錠前）に同梱の説明書を参照してください。



2. 配線納めと通電金具の固定

1. 仮固定していた通電金具を取外し、配線コードが扉上部からはみ出ないように配線を引出す。①

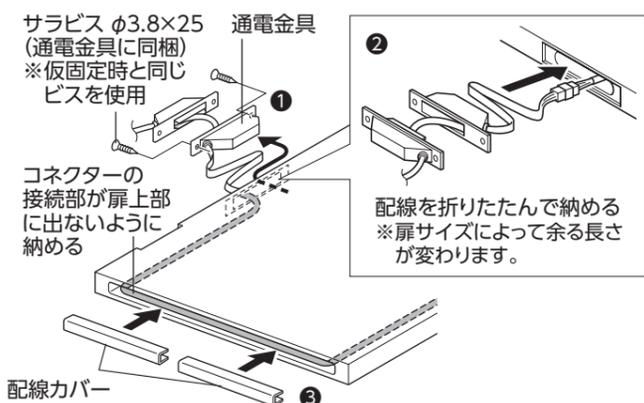
2. 通電金具のコードがねじれないように格納する。②

3. 通電金具（扉側）をビスで固定する。

※ 通電金具の固定方法は通電金具に付属の説明書を参照してください。

4. 扉上部に配線カバーを取り付けてから、溝に沿って接着剤を塗布してください。③

※ LXデザインの場合、配線カバー（アルミ製）への接着剤は不要



注意

⚠ 接着剤が透明になるまで養生してください。

⚠ 養生後に取外す際は、カッターなどで接着剤に切込みを入れてから配線カバーを取外してください。

3. 通電金具と電源へつなく配線との接続

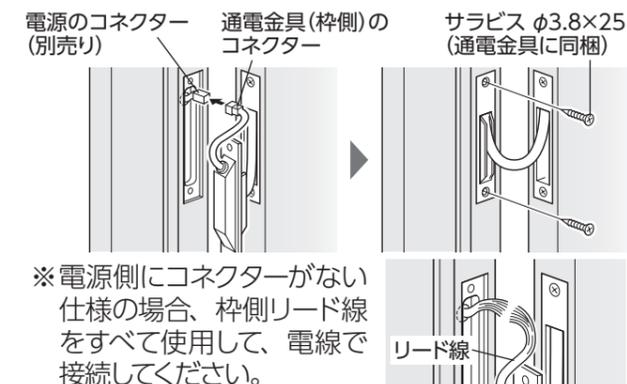
※まだ通電しないでください。

1. 通電金具（枠側）のコネクタを、あらかじめ壁から持ってきている電源のコネクタ（別売り）と接続する。

2. 通電金具（枠側）をビスで固定する。

※ 通電金具の固定方法は通電金具に同梱の説明書を参照してください。

3. ラッチ受けを縦枠に取付ける。
電気錠本体（錠前）に同梱の施工説明書を参照して取付けてください。



※電源側にコネクタがない仕様の場合、枠側リード線をすべて使用して、電線で接続してください。

4. 施工後の確認

※通電する前に確認してください。

1. 扉上部の配線が飛び出していないか確認する。



2. 扉の開閉確認をする。
※ OMOIYARI ドア（開き戸）の施工説明書を参照してください。

3. 扉を閉めたときにデッドボルトが飛び出るか確認する。飛び出ない場合は以下を確認してください。

①ストライクのマグネットが上側にあるか

※左開き選択時のみ
➡下側になっている場合
電気錠本体（錠前）に同梱の説明書を参照して付替えてください。

②扉の戸先と枠のすき間が6mm以内になっているか

➡なっていない場合
おもいやりドア（開き戸）の施工説明書を参照して調整してください。



上記以外は、電気錠本体（錠前）に同梱のチェックリストに沿って確認してください。

電気の配線・設定・点検に関することは、電気錠本体（錠前）に同梱の施工説明書を参照し、併せてご対応ください。

250926-IN-300LD-OMDK-SH